

# 看護学生の達成動機と基礎看護技術習得との関連

— これらの相互間に及ぼす影響の因子分析的検討 —

松 永 保 子\*・内 海 滉\*\*

## Relationship of Achievement Motive to the Growing Basic Nursing Technology of Nursing Student

— The Survey by the Method of Factor Analysis —

Yasuko MATSUNAGA\*, Ko UTSUMI\*\*

**Abstract :** The Achievement Motive was studied of 96 students in the nursing course of a college. Six factors were extracted by the varimax rotation :  $f_1$  is positive attitude,  $f_2$  is others' consciousness,  $f_3$  is hoping to future,  $f_4$  is self-consciousness,  $f_5$  is social consciousness and  $f_6$  is success of status.

The relationship was observed between scores of these factors and the test results of nursing technology, suggesting the students with the high score of the Achievement Motive give the bitter self-evaluation on nursing technology.

**Key words :** nursing student, achievement motive, basic nursing technology, nursing education

### はじめに

看護教育においては、専門的な知識と技術を教授することが中心的なことである。なかでも看護技術を教授することには大きな比重が占められている。

看護技術習得に影響を及ぼす要因については、これまでさまざまな見解が述べられてきた。最近注目を集めている大きな要因のひとつは、学生の達成動機である。達成動機は、Atkinson や McClelland ら<sup>1-5)</sup>により研究が進められ、Lowell や Entin など<sup>6-8)</sup>によりその高値者は課題の遂行成績において優れているということが見出されている。したがって、学生の達成動機や学習意欲を向上させることは、看護技術を習得させるための望ましい要因であると考えられる。

本研究では、より効果的な看護技術教育の方法を探るべく、学生の達成動機を測定し、それと基礎看護技術習得との関連を検討した。

### 方 法

#### 1. 研究対象および時期

N看護短期大学の1年生96名(女子94名,男子2名)を対象に,1995年6~7月に実施した。学生には,この調査が研究のためのものであり,個人的な情報は一切外部に漏れないことを説明して同意を得た。

#### 2. 測定方法

堀野・森<sup>9-10)</sup>によって開発された23項目からなる双極7件法の「達成動機測定尺度」を用い,学生の達成動機を測定した(table 1)。この測定尺度は,Bendingの質問紙<sup>11)</sup>に基づき翻訳・加筆した12項目と,さらに11項目を加えて作成したものである。

#### 3. 手続き

「ガーゼ交換の介助」の技術テストを以下のような手順で行った。

\* 山形県立保健医療短期大学看護学科  
〒990-2212 山形市上柳260番地  
Department of Nursing, Yamagata School of Health Science  
260 Kamiyanagi, Yamagata-shi, 990-2212 Japan  
\*\* 千葉大学  
Chiba University

Table 1 達成動機測定項目

1.	いつも何か目標を持っていたい
2.	ものごとは他の人よりうまくやりたい
3.	決められた仕事の中でも個性をいかしてやりたい
4.	人と競争することより、人とくらべることができないようなことをして自分をいかしたい
5.	他人と競争して勝つとうれしい
6.	ちょっとした工夫をすることが好きだ
7.	人に勝つことより、自分なりに一生懸命やることが大事だと思う
8.	みんなに喜んでもらえるすばらしいことをしたい
9.	競争相手に負けるのはくやしい
10.	何でも手がけたことには最善をつくしたい
11.	どうしても私は人より優れていたいと思う
12.	何か小さなことでも自分にしかできないことをしてみたいと思う
13.	勉強や仕事を努力するのは、他の人に負けないためだ
14.	結果は気にしないで何かを一生懸命やってみたい
15.	今の社会では、強いものが出世し、勝ち抜くものだ
16.	いろいろなことを学んで自分を深めたい
17.	就職する会社は、社会で高く評価される場所を選びたい
18.	成功するということは、名誉や地位を得ることだ
19.	今日一日何をしようかと考えることはたのしい
20.	社会の高い地位をめざすことは重要だと思う
21.	難しいことでも自分なりに努力してやってみようと思う
22.	世に出て成功したいと強く願っている
23.	こういうことがしたいなあと思うとわくわくする

Table 2 評価表

1:できた 0:できない

評価項目	評価
1. 必要物品(鑷子立て, 万能つば, カスト)を不潔にしないで用意できる	1 0
2. カストの側面と底の通気孔が, 開いていないかの確認ができる	1 0
3. 患者に声かけすることができる(始めの説明と終了時)	1 0
4. 汚染させず, 介助しやすいように, ワゴンの上の物品を配置できる	1 0
5. 毛布をまくり, 汚れないように寝衣を上げ, 右前腕を出すことができる	1 0
6. クリニカルシーツの吸水面を上にして, 腕の傷の下に敷くことができる	1 0
7. 膿盆を創部の近くの平らなところに, 置くことができる	1 0
8. 膿盆を毛布に触れないように, 置くことができる	1 0
9. 創部のガーゼを取り, 膿盆から出ないように入れることができる(ガーゼは二つ折りにしなくてもよい)	1 0
10. 鑷子を他の鑷子や鑷子立てに触れないように, 先を閉じて垂直に取り出すことができる	1 0
11. 鑷子の先を閉じて, 医師がとりやすいように渡すことができる	1 0
12. 万能つばの蓋の把持部を持って, 蓋を開けることができる	1 0
13. 万能つばの蓋は 90° 以上開けないようにできる	1 0
14. 鑷子や綿球が万能つばの縁に触れないように, 綿球を取り出すことができる	1 0
15. 綿球を膿盆の上で, 渡すことができる	1 0
16. 綿球の上の方を持って, 医師が取りやすいように渡すことができる	1 0
17. カストの取っ手を持ち, 蓋を開けることができる(留め金を持って開けてもよい)	1 0
18. カストの蓋は 90° 以上開けないようにできる	1 0
19. 鑷子やガーゼがカストの縁に触れないように, ガーゼを取り出すことができる	1 0
20. ガーゼの輪の方を持って, 医師が取りやすいように渡すことができる	1 0
21. 絆創膏をハサミで, 適切な長さに切ることができる	1 0
22. 絆創膏で圧迫せずに, ガーゼの端の方を貼ることができる	1 0
23. クリニカルシーツを取り除き, 寝衣を整えて, 毛布を掛けることができる	1 0
24. 清潔な物品を不潔にせずに戻し, 汚物を汚物缶に捨てることができる(汚物缶は足で開ける)	1 0
25. 使用後の膿盆と鑷子を水洗いして, 消毒液に完全に漬けることができる	1 0
合計	点

- ① 指定の時間に来た被験者に, ガーゼ交換の介助の手順書を渡して読むように指示をした。
- ② 手順書を渡した 15 分後に, 被験者を入室させ, 「ガーゼ交換の介助」のデモンストレーション

ビデオを見せた。

- ③ 隣室にビデオの中で使用していたものと同じ物品を用意し, 10 分間練習をさせた。
- ④ 練習後, 被験者を別室に呼び, 10 分間の技術

Table 3 アンケート

今の自分の気持ちにより当たっていると思われるものの数字に○をつけてください。

	非常に そう 思う	やや そう 思う	ふ つ う	あ ま り 思 わ な い	全 く 思 わ な い
1. 手順書をわかりやすいと思えましたか	5	4	3	2	1
2. ビデオの看護婦の技術がわかりやすいと思えましたか	5	4	3	2	1
3. ビデオの説明の内容がわかりやすいと思えましたか	5	4	3	2	1
4. ビデオの説明のスピードが早いと思えましたか	5	4	3	2	1
5. あなたは鑷子を汚染させずに扱えたと思えますか	5	4	3	2	1
6. あなたは万能つぼの中を汚染させずに扱えたと思えますか	5	4	3	2	1
7. あなたはカストの中を汚染させずに扱えたと思えますか	5	4	3	2	1
8. あなたは綿球を汚染させずに取り出せたと思えますか	5	4	3	2	1
9. あなたはガーゼを汚染させずに取り出せたと思えますか	5	4	3	2	1
10. あなたは医師が取りやすいように物品を渡せたと思えますか	5	4	3	2	1
11. あなたは清潔と不潔について常に気を配ったと思えますか	5	4	3	2	1
12. 無菌操作は看護をするうえで大切な技術だと思えますか	5	4	3	2	1
13. 無菌操作を難しいと思えますか	5	4	3	2	1

テストを実施した。テストの評価は2名で行い、1名が医師役を行った。評価項目は、25項目であった (Table 2)。

⑤ 技術テスト終了直後、アンケートに答えてもらった (Table 3)。

この間、質問には一切答えなかった。

#### 4. 分析方法

達成動機測定尺度の各項目を7段階に数量化して入力し、主成分分析の後、バリマックス回転による因子分析を行った。

技術テストの25評価項目は2群「できた」「できない」に分けて、因子得点の平均値をt検定した。

技術テスト後のアンケートは3群、「思う (選択肢の5と4)」「ふつう (選択肢の3)」「思わない (選択肢の2と1)」に分けて、因子得点の平均値を分散分析した。

## 結 果

### 1. 因子の命名

達成動機測定尺度の23項目を主成分分析した後、バリマックス回転にかけて6因子を抽出した。第1因子を積極姿勢因子、第2因子を他人意識因子、第3因子を未来希望因子、第4因子を自我満足因子、第5因子を対社会因子、第6因子を地位成功因子と命名した (Table 4)。

### 2. 因子得点と技術テストの評価項目との関連

25評価項目の2群による因子得点の平均値をt検定した結果、25項目中の「汚染させず、介助しやすいように、ワゴン上の物品を配置できる」の第1因子では、「できた」群の方が危険率5%以下で有意に高値であり、「ガーゼの輪の方を持って、医師が取りやすいように渡すことができる」の第1因子では、危険率5%以下で有意に低値であった。「鑷子や綿球が万能つぼの縁に触れないように、綿球を取り出すことができる」の第5因子が危険

Table 4 因子負荷量

項目	f <sub>1</sub>	f <sub>2</sub>	f <sub>3</sub>	f <sub>4</sub>	f <sub>5</sub>	f <sub>6</sub>	因子名
10. 何でも手がけたことには最善をつくしたい	0.83	-0.02	0.00	0.13	-0.06	0.03	積極姿勢因子
21. 難しいことでも自分なりに努力してやってみようと思う	0.71	-0.17	0.15	0.18	-0.26	-0.06	
16. いろいろなことを学んで自分を深めたい	0.66	0.19	0.03	0.33	0.04	0.08	
1. いつも何か目標を持っていたい	0.65	0.17	0.29	0.10	-0.03	-0.18	
9. 競争相手に負けるのはくやしい	0.06	0.80	-0.10	0.01	-0.04	0.19	他人意識因子
11. どうしても私は人より優れていたいと思う	-0.06	0.74	0.12	0.08	-0.38	0.15	
13. 勉強や仕事を努力するのは、他の人に負けないためだ	-0.07	0.60	0.29	0.03	-0.19	0.29	
5. 他人と競争して勝つとうれしい	0.43	0.58	-0.05	-0.24	0.01	0.17	
19. 今日一日何をしようかと考えることはたのしい	0.05	-0.07	0.84	0.07	0.01	0.15	未来希望因子
23. こういうことがしたいなあと考えたとわくわくする	0.25	0.11	0.75	0.05	-0.13	-0.19	
4. 人と競争することより、人とくらべることができないようなことをして自分をいかしたい	0.02	-0.14	0.00	0.81	0.00	0.26	自我満足因子
3. 決められた仕事の中でも個性をいかしてやりたい	0.21	0.24	0.29	0.61	-0.11	-0.08	
7. 人に勝つことより、自分なりに一生懸命やるのが大事だと思う	0.29	-0.17	-0.06	0.53	-0.13	-0.38	
12. 何か小さなことでも自分にしかできないことをしてみたいと思う	0.34	-0.01	0.06	0.53	-0.13	0.11	
17. 就職する会社は、社会で高く評価されるところを選びたい	0.04	0.16	-0.05	-0.13	-0.69	0.42	対社会因子
2. ものごとは他の人よりうまくやりたい	0.05	0.45	-0.05	0.17	-0.68	-0.05	
8. みんなに喜んでもらえるすばらしいことをしたい	0.46	-0.07	0.07	0.16	-0.66	-0.08	
22. 世に出て成功したいと強く願っている	0.03	0.24	0.30	0.13	-0.62	0.26	
20. 社会の高い地位をめざすことは重要だと思う	0.08	0.09	0.24	0.03	-0.15	0.73	地位成功因子
18. 成功するということは、名誉や地位を得ることだ	0.04	0.33	-0.13	-0.08	-0.06	0.68	
15. 今の社会では、強いものが出世し、勝ち抜くものだ	-0.18	0.20	-0.14	0.20	-0.07	0.64	

率5%以下で有意に高値であり、「綿球の上の方を持って、医師が取りやすいように渡すことができる」の第5因子が危険率1%以下で有意に高値であった。また、「絆創膏で圧迫せずに、ガーゼの端の方を貼ることができる」の第2因子と「綿球を

膿盆の上で、渡すことができる」の第6因子が危険率5%以下で、有意に高値であった (Table 5)。

### 3. 因子得点とアンケートとの関連

因子得点の平均値とアンケートとを分散分析した結果、アンケートの16項目中「あなたはカスト

Table 5 技術テスト成績と因子得点の平均値の比較

評価		因子得点	f <sub>1</sub>	f <sub>2</sub>	f <sub>3</sub>	f <sub>4</sub>	f <sub>5</sub>	f <sub>6</sub>
ワゴン上の物品の配置	できた (n=18)		.38*	.19	.14	.28	-.20	.09
	できない (n=79)		-.04	-.03	.01	-.07	.03	-.04
ガーゼの輪の方を持って渡す	できた (n=72)		-.06*	.04	.09	-.07	.08	-.02
	できない (n=25)		.31	-.06	-.13	.19	-.30	.00
万能つばから綿球を取り出す	できた (n=50)		-.03	.15	-.06	-.03	.18*	.03
	できない (n=47)		.11	-.14	.14	.02	-.22	-.07
綿球の上の方を持って渡す	できた (n=83)		.06	.04	.04	.04	.07**	-.05
	できない (n=14)		-.08	-.15	.03	-.26	-.55	.15
ガーゼの端の方を貼る	できた (n=61)		.06	.20*	-.05	.10	-.01	.03
	できない (n=36)		-.00	-.31	.18	-.18	-.02	-.11
綿球を膿盆の上で渡す	できた (n=73)		.05	.05	.05	-.07	.09	.10*
	できない (n=24)		-.00	-.09	.00	.19	-.34	-.38

\* : p < .05 \*\* : p < .01

Table 6 アンケート群別の因子得点の分散分析表

カストを汚染させずに扱う

第1因子	変動	自由度	分散	分散比F
群間	8.68	2	4.34	5.26**
群内	77.56	94	0.82	
総	86.24	96		

無菌操作の難易度

第4因子	変動	自由度	分散	分散比F
群間	8.74	2	4.37	4.91**
群内	83.72	94	0.89	
総	92.46	96		

鑷子を汚染させずに扱う

第1因子	変動	自由度	分散	分散比F
群間	5.83	2	2.92	3.41*
群内	80.41	94	0.86	
総	86.24	96		

医師に物品を渡す

第5因子	変動	自由度	分散	分散比F
群間	8.82	2	4.41	4.75*
群内	86.29	93	0.93	
総	95.11	95		

\* : p < .05 \*\* : p < .01

の中を汚染させずに扱えたと思いますか」の第1因子と「無菌操作を難しいと思いますか」の第4因子が危険率1%未満で有意であり、「あなたは鑷子を汚染させずに扱えたと思いますか」の第1因子と「あなたは医師が取りやすいように物品を渡

せたとと思いますか」の第5因子が危険率5%未満で有意であった (Table 6)。

### 考 察

積極的姿勢の強い群は、達成動機測定項目の「何

でも手がけたことには最善をつくしたい」「難しいことでも自分なりに努力してやってみようと思う」などに見られるように合理的な解釈に興味を示し、また、技術テスト評価項目の「汚染させず、介助しやすいように、ワゴン上の物品を配置できる」ような点に意欲を示し、「ガーゼの輪の方を持って、医師が取りやすいように渡すことができる」などには関心を持たなかった。

一方、対社会的意識の強い群は、達成動機測定項目の「就職する会社は、社会で高く評価される場所を選びたい」「ものごとは他の人よりうまくやりたい」「世に出て成功したいと強く願っている」などに見られるように、人目につくような技術的な面に達成感を抱いているようであった。したがって、技術テスト評価項目の「鑷子や綿球が万能つぼの縁に触れないように、綿球を取り出すことができる」「綿球の上の方を持って、医師が取りやすいように渡すことができる」などに関連した。

地位成功因子や他人意識因子では、多少の得意気あるいは見てくれの良さを目標に思考している pattern が認められた。このように、達成動機の内容が技術の項目に関与する姿が窺えた。

また、技術テスト後のアンケートについては、積極的姿勢因子の高い群が、物品を汚染させずに扱える自信を持っており、社会的意識因子の高い群が、相手の意向を汲み効率よく行動する姿勢が見られた。自我満足因子の高い群が、「人と競争することより、人とくらべることができないようなことをして自分を生かしたい」など技術的な完璧さを意図する姿勢が窺えた。

達成動機は2,3の点で看護技術の習得と結びつくが、技術を向上させようとする動機が「自我の過大欲求」であれ「対社会的虚飾」であれ、結果的に学問や技術習得への捷徑となることを考えれば、心理的意識を観察する達成動機の調査により、看護実践の効果が関連してゆく構造を把握することができる。今後さらにこの知見をふまえて、よりよい教育の方法を築き上げたい。

## 文 献

- 1) Atkinson, J. W. & Reitman, W. R. : Performance as a function of motive strength and expectancy of goal-attainment. *Journal of Abnormal and Social Psychology* 53, 361-366, 1956.
- 2) Atkinson, J. W. & O'Connor, P. : Neglected factors in studies of achievement-oriented performance, Social approval as incentive and performance decrement. In Atkinson, J. W. & Feather, N. T. (Eds.) , *A theory of achievement motivation*. Wiley, 299-325, 1966.
- 3) Atkinson, J. W. : Motivational determinants of risk-taking behavior. *Psychological Review* 64, 359-372, 1957.
- 4) Atkinson, J. W. & McClelland, D. C. : The projective expression of needs II, The effect of different intensities of hunger drive on thematic apperception. *Journal of Experimental Psychology* 38, 643-658, 1948.
- 5) McClelland, D. C., Atkinson, J. W. & Clark, R. A. : *The achievement motive*. Appleton-Century, 1953.
- 6) Lowell, E. L. : The effect of need for achievement on learning and speed of performance. *Journal of Psychology* 55, 59-66, 1952.
- 7) French, E. G. : Some characteristics of achievement motivation. *Journal of Experimental Psychology* 50, 232-236, 1955.
- 8) Entin, E. E. : Effect of achievement-oriented and affiliative motives on private and public performance. In Atkinson, J. W. & Raynor, J. O. (Eds.), *Motivation and achievement*. Winston & Sons, 219-236, 1974.
- 9) 堀野緑：達成動機の構成因子の分析 *教育心理学研究* 35(2), 52-58, 1987.
- 10) 堀野緑・森和代：抑うつとソーシャルサポートとの関連に介在する達成動機の要因 *教育心理学研究* 39(3), 66-73, 1991.
- 11) Bending, A. W. : Factor analytic scales of need achievement. *Journal of General Psychology* 70, 59-67, 1964.

— 1998.11.10. 受稿, 1999.1.8. 受理 —

- 1) Atkinson, J. W. & Reitman, W. R. : Performance as a function of motive strength and expectancy of goal-attainment. *Journal of Abnormal and Social Psychology* 53, 361-366, 1956.

## 要 約

N 看護短大1年生96名を対象に, 達成動機を測定し因子分析を行った。バリマックス回転により6因子を抽出し, 第1因子を積極姿勢因子, 第2因子を他人意識因子, 第3因子を未来希望因子, 第4因子を自我満足因子, 第5因子を対社会因子, 第6因子を地位成功因子と命名した。

また, 因子得点と技術テストの評価項目について検討した。その結果, 学生の得意・不得意の技術項目と達成動機との関連が明確になった。さらに, 因子得点と技術テスト後のアンケートを検討した結果, 達成動機の高い学生はあまりよい評価を行わず, むしろ自分を厳しく見つめる傾向にあることがわかった。

キーワード：看護学生, 達成動機, 基礎看護技術, 看護教育